

名古屋市教育委員会臨時会

平成 26 年 7 月 25 日
午前 9 時 00 分
教育委員会室

議 案

第 69 号議案 平成 27 年度使用教科用図書の採択について
第 72 号議案 教職員人事について

出席者

野 田 敦 敬 委員長
服 部 はつ代 委員
梶 田 知 委員
福 谷 朋 子 委員
小 栗 成 男 委員
下 田 一 幸 教育長
教育次長始め、事務局職員24名

(野田委員長)

ただ今から、教育委員会臨時会を開催いたします。まず始めに議事進行に関しまして、本日第69号議案において採択を審議する教科用図書のうち、理科と生活科について、諸般の事情により私退席させていただきたいと思っております。その際の議事につきましては、第1委員長職務代理者である服部委員にお願いしたいと思っております。

次に議事運営についてお諮りいたします。第72号議案は、名古屋市教育委員会会議規則第6条の規定に基づき、非公開にて審議し、会議録につきましても、非公開としたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

(各委員)

異議なし。

(野田委員長)

ご異議なしと認め、そのように扱わせていただきます。

続きまして、本日の審議に先立ちまして、28名から傍聴の申し出がありましたので、抽選を行い、名古屋市教育委員会傍聴規則第2条により、10名を許可いたしたいと思っておりますが、ご意見はございますでしょうか。

(各委員)

異議なし。

(野田委員長)

それでは、傍聴人の方に入室していただきます。

【傍聴人入室】

(野田委員長)

傍聴される方々にお願いいたします。名古屋市教育委員会傍聴規則第4条により、次の2点を守っていただくこととなります。1点目は、委員その他の出席者の言論に対し批評を加え又は可否を表さないこと、2点目は、私語その他会議の秩序を乱し、又は議事の妨害となるような行為をしないこと、以上の2点であります。また、同規則第5条により、録音等については禁止しております。よろしく申し上げます。

なお、本日の第69号議案の平成27年度使用教科用図書の採択に関しては、県の指導により、採択等に関わる会議録、資料等は8月31日まで非公開となっておりますので、傍聴の方もご配慮ください。

それでは、第69号議案「平成27年度使用教科用図書の採択について」を議題といたします。7月17日に行いました定例会では、高等学校と中学校、特別支援学校及び小中学校の特別支援学級用教科用図書、小学校の地図、家庭の2種目について採択を行いました。本日は前回に引き続き、小学校用教科用図書の国語、保健、理科、生活の4種目について採択を行います。

それではまず、国語からお願いいたします。

(松山指導主事)

国語の教科書は東京書籍、学校図書、三省堂、教育出版、光村図書の5者から発行されています。まず、全小学校での研究結果について報告いたします。ピンクのファイルの国語科のページをご覧ください。総合的に見まして、教育出版と光村図書の2者が高い評価であり、総合計では教育出版がやや高い支持を得ています。内訳では、内容と印刷・造本面で教育出版が高く、指導要領との関連・学習の仕方・指導上の便宜については、光村図書が高くなっています。

次に、調査専門委員会による調査結果について報告いたします。緑色のファイル、国語科5ページの方をお開きください。特筆すべきものについて説明をさせていただきます。説明の中で、教科書を見ていただきますが、積んである教科書の上から順に使っていきますので、よろしく申し上げます。

それでは観点1についてです。各者、実生活に生きる読書活動の工夫がされています。教科書の東京書籍4年上、19ページをご覧ください。付箋が入っているページです。中心となる文学教材と共通のテーマの本を紹介をしています。続きまして光村図書4年下、130ページをご覧ください。こちらでは学年の発達段階に応じて児童に読ませたい本をまとめて紹介しています。続きまして教育出版6年下、巻末の折り込みページを開いてください。こちらは折り込みで見やすくなっており、本がジャンル別に紹介がされて

いて、児童が選びやすくなっております。では閉じてください。

続きまして観点2については、郷土に対する理解を深める教材が掲載されているものがありました。教育出版の4年上、50ページをご覧ください。見学したことを報告文に書く学習で、名古屋市の猪子石工場が取り上げられています。めくっていただいて55ページ、次の付箋のところです。こちらの報告文には、本市の環境問題に対する先進的な取り組みが書かれています。では閉じてください。続きまして同じく教育出版4年下、6ページをご覧ください。説明文教材として、名古屋港水族館が約20年間取り組んできた、アカウミガメの研究についての文章が取り上げられています。このように教育出版には、郷土に対する愛着と誇りがもてる教材が配置されています。

次に、観点3(1)「内容の選択」についてです。学校図書4年上、144ページをご覧ください。そこにあります「授業で使う言葉」や、1枚めくっていただきまして、「国語のかぎ」を掲載し、基礎・基本を身に付けやすくしています。閉じてください。続きまして光村図書6年、28ページをご覧ください。文学教材の手引きにおいて、上段で基礎・基本的な内容を取り上げ、下段で言語活動をとおした表現力の育成を図るようにしています。

続きまして観点3(3)「内容の構成」では、本市学習状況調査で、毎年本市児童の課題となっている漢字の学習に着目しました。三省堂4年、14ページをご覧ください。

「新しい漢字を学ぼう」のページでは、新出漢字を覚える際に、文の中での使い方を取り上げ、実生活で応用できるように工夫しています。閉じてください。続きまして教育出版5年下、28ページをご覧ください。漢字の習得のための三つの場が設けられています。今見ていただいております28、29ページの「漢字の広場」では、テーマに沿って漢字の学習をする場、めくっていただきまして30ページ、こちらでは新しい漢字をドリル形式で学ぶ場、31ページは、前の学年で習った漢字を短文作りで定着させる場になっています。この三つの場で、漢字が定着するように配慮されています。では閉じてください。

観点5「印刷・造本等」については、教育出版1年上、1ページをご覧ください。イラストページが切り抜きになっており、児童の興味をひく工夫がされています。では閉じてください。教育出版2年下、78ページを開いてください。「いなばの白うさぎ」のタイトルの右端をご覧くださいと、「うさぎが、わにの背中をわたる場面を、紙人形で楽しみましょう」とあります。次に85ページを見てください。その活動イメージがイラストで載っています。続いて、巻末の厚紙でできた折り込みをお開きください。その学習で使う紙人形が、飛び出すカード形式で入っています。学級みんなでお話の世界を楽しむ工夫がされています。では閉じてください。

続きまして国語科で重点となっている事項について報告をいたします。緑色のファイルの報告書6ページをご覧ください。事項2「書くこと」についてです。「書くこと」は、本市学習状況調査で、毎年本市児童の課題となっています。教育出版6年上、14ページをご覧ください。このように日常的に書くための小単元が、どの学年にも早い時期に設けられ、書くことが習慣付くような工夫がされています。また、読むことの単元においても、書く活動を取り入れ、書く力が定着するように工夫がされています。では閉じてください。

続きまして事項3「読むこと」についてです。東京書籍5年生166ページをご覧ください。手塚治虫の伝記など、児童が関心をもちやすい題材の作品を取り上げています。では閉じてください。光村図書4年上、40ページをご覧ください。説明文を読む単元では、このように見開き2ページの短い説明文があり、1枚めくっていただきまして次の付箋の42ページのところ、こちらには同じような構成の長い説明文が載っています。このように、初めの教材で学んだことを生かして、後の教材の学習を進めていくというそんな工夫がされています。では閉じてください。

事項5「単元を貫く言語活動」についてです。教育出版3年上、114ページをご覧ください。単元名の右端に、「物語をしようかしよう」という活動目標が示されています。児童が主体的に取り組めるように、ゴールとなる言語活動が具体的に示されており、単元を貫く言語活動が位置付けられています。次の付箋のところ、126ページには手引きで、学習を進める手がかりをこちらで示しています。次の付箋の129ページ、「ここが大事」というところでは学習のポイントが書かれています。これらによって、児童の主体的な学びを支えています。では教科書は閉じてください。

最後に、教科書センターでの教科書展示会における「市民の声」について報告いたします。黄色のファイルの国語の10ページをご覧ください。「名古屋港水族館の作品を名古屋の子に」という声、それから11ページ、「上下が1冊の本は重い」という声、少し先になりますが36ページ、「光村の作品は、品があり、良作」といった声、このような声が寄せられておりました。以上、国語科について、報告いたしました。

(野田委員長)

大変丁寧にご説明いただきました。それでは国語の採択に関する審議に入りますが、ご意見、ご質問はありませんでしょうか。

(福谷委員)

どの教科書も非常に興味深く拝見させていただきました。現場で使っていられる先生方が今の教科書を使って子どもを教育することを、やりやすいかどうかという観点も大事なかなとも思うんですけども、このピンクのファイルの各学校における観点別傾向を拝見しておりますと、それ以外は結構僅差だったりなんですけれども、内容の「程度」のところ、教育出版が光村の倍以上の高評価を得ているのですが、その理由というか、程度的にこの二つの出版社で何らかの違いというものはあるんでしょうか。

(野田委員長)

7観点のうち3ページですね。ピンクのファイルの3ページの、先程の説明の中でこの観点はということでご説明ありましたが、特に(2)「内容の程度」のところほとんどダブルスコアになっているからどうかということですね。

(松山指導主事)

今ご指摘のように、教育出版が光村に差をつけて支持を得たのは、(2)「内容の程

度」というところです。それは文学作品などの教材の扱い方の面でのわかりやすさではないかというふうに思います。では少し教科書を見て比較をしたいと思います。教育出版の4年上と光村の4年上の同じ教材で比較をしてみたいと思います。どちらも22ページに同じ教材が載っています。「白いぼうし」という教材の手引きのページを比べていただきたいと思います。光村図書は上段に基礎・基本の内容、下段に言語活動といった工夫した紙面構成になっております。しかし言語活動を示すのが、例えば「ノートにまとめましょう」という投げかけの言葉だけになっていますが、教育出版の方を見ますと「ノートにまとめましょう」という言葉だけでなく、まとめ方の例が載っています。また、光村の下の段の「発表しましょう」のところについても、簡単な吹き出しですが、教育出版の方は、24ページに「日記に書きましょう」という投げかけと具体的な日記の例が載っています。このように教育出版の方が、児童にとっても教師にとっても何をどうしたらいいかが明確であり、わかりやすいと感じるのではないかということが調査専門委員会の方では話題になっておりました。

(野田委員長)

同じようなところで、5年生を見せてもらえますか。教育出版の68ページ、69ページ、それから光村の38ページ、39ページに2つの新聞記事を読み比べるというページが出てきておまして、教育出版の方は男子体操の内村航平選手が金メダルを獲った時の写真があって、これに見出しを付けようみたいな形になっています。光村の方は金冠日食の記事が出ておまして、全国紙とそれから京都で発行された新聞を比べて、要するに全国紙と地方紙を比べる形になっています。5年生の子どもにとってどっちが興味が湧いて、学習しやすいかという、私はやっぱり教育出版の方がわかりやすいかなというふうにこの記事で思いました。中身的にも今の子ですので、内村航平さんの方がいい感じが、私は寂しいですけども、きっと興味があるのかなというふうに思っただけです。ただ一方ですね、教育出版の方が5年の上の90ページ「大造じいさんとガン」、それから光村の方が上下ありませんので、一体型で114ページにこれも同じ教材が出てきて、昔懐かしい教材で、例えばこの文学作品でいうと光村の方がですね、最初の2ページに渡って前置きがあるんですね。これは私はこちらの前置きというものが有効だろうなというふうに感心をしました。イラストもそれぞれ特徴があるなと思っただけです。見させていただけましたけれども、最後のまとめ方のところで、教出版の106ページと、光村の132ページのところですけれども、このまとめ方のところがですね、「内容の程度」ということを考えますと、教育出版の方が子どもは学びやすいのかな、先生方もやりやすいのかなという感じがしました。他にもありますけれども、時間の関係もありますのでここまでにさせていただきますけれども、他によろしいですか。

(服部委員)

全般的な感想でいうと、内容のこともありましたけれど、読み物として全体をずっと流して両方を読ませていただきましたところ、文学作品から日本の俳句から色々そういうものがきちんと上手に配列されているのは光村さんだと思ったんですけど

も、この指導上の配慮という点では、教育出版の方が細かく指導上の配慮がされているなというふうに感じました。

(野田委員長)

その他いかがでしょうか。

あとこの厚さ、これが気になりまして、合本とそれから分冊とを見ましたら、5者のうち、どっちが3だったかしっかり記憶をしていませんけれども、3対2ぐらいで分冊と合冊があるんですよね。どっかは全部が合冊だったと思いますけれども、この分冊と合冊については、「市民の声」にもありましたけれども、この辺いかがでしょうか。高学年4年以上ですよ。5年、6年。5、6が合冊。項目でいいますと「印刷・造本等」になるんですかね。

(服部委員)

「市民の声」を見ますと「光村さんの作品は品があって良いけれども、重い」と書いてあるところがありましたけれども。

(野田委員長)

これページ数を合計しますと、分冊の方が多くなるんですよ。ページ数を合計すると分冊の方が多くなって、中身的にはそれだけ抱え込むようなことになります。「市民の声」としてはそういう声が挙がっていた。他いかがでしょうか。

あと漢字のところがありましたけれども、名古屋の子は若干漢字が弱いんですけどね。そうすると先程の漢字の3場面ですかね、学習場面があるという形は漢字力を付けるにはいいのかなと思いましたがけれども。いかがでしょうか。資料が膨大過ぎるかな。

あと1点漢字に関して疑問といいますか、国語の中には書写の時間がございますよね。そうすると今はどうなってたんでしたっけ。今は国語が光村で、書写が教出でしたよね。その辺の齟齬というのはないんですか。例えば漢字の出で来方が違うので、国語で漢字を学ぶ前に、書写で学んでいない漢字を使うだとかその辺はないんですか。

(松山指導主事)

国語と書写で教科書会社が異なりますと、やはり新出漢字の提出順が、会社によって取り上げている教材が違うものですから、異なってきます。そうしますと会社が違っていると、書写の時間にまだ国語で習っていない漢字が出てくるといった問題が発生します。同じ会社であるとそういったことがなくなるというふうに、これは調査専門委員会でも話題になっておりました。

(野田委員長)

同じ会社なら配慮はされているはずですよ。当然ながら。書写は次回ですので、ちょっと微妙なところですけども。他いかがでしょうか。

あともう1点ですね、私気になったのは、調査専門委員会の報告書の中の5の「単元

を貫く言語活動を位置付けた学習の扱い」、これはかなり国の方でも重視している項目であると伺いましたけれども、このところもう少し詳しく説明いただけると。よろしいですか。

(松山指導主事)

単元を貫く言語活動についてですが、現行のものとも少し教科書を比較してみますと、例えば光村図書の方は、現行からある程度単元を貫く言語活動が意識されたような単元の活動目標が示されています。例えば「一つの花」では、「物語を読んで紹介しよう」となっているのが、これが27年度版ですと、「場面の様子に着目して読み紹介しよう」というような形になっております。一方教育出版の方は、現行の方はあまり単元を貫くといった意識付けが感じられないような単元の活動目標で、例えば文学教材だと、「思いを想像して読む」というようなことなんですが、27年度版にはその辺りの単元を貫く言語活動の位置付けが意識をされて、「想像を広げて日記を書こう」といったようなことが活動目標で示されている。調査専門委員会の方では、より単元を貫く言語活動としてふさわしい、ゴールとなる言語活動としては、教育出版の方がより具体的であるといったような意見が出されておりました。

(野田委員長)

それではこの観点、平成20年の学習指導要領の改正の中で重点になったということですね。

(松山指導主事)

はい。

(野田委員長)

そうすると光村さんは前回の改定直後の教科書の中にはすでにそれは反映されていた。教出さんは前回はそれほどでもなかったけれども、今回その辺が改善されてきたといった理解でよろしいですか。

(松山指導主事)

はい。

(野田委員長)

他皆さんどうでしょうか。

(下田教育長)

やはり現場の先生が使いやすいということが何と言っても重要ななと思っています。

(梶田委員)

今使われているのがこの光村さんのだと聞いているのですが、それでもこうして各

学校からの報告書では、教出の方が高得点になっているというところは、非常に重く受け止めた方がいいかなというふうに思います。

(小栗委員)

点数のところ特に「印刷・造本等」のところ、教育出版が先程の2冊に、5年生6年生のところにフレッシュ感が出てるかなとかですね、特に一番の違いが巻末の本の紹介のところっていうのが非常にわかりやすく紹介されている、ここに大きな違いが見られるかな、それがこの教科書に表れているかなという気がしました。

(野田委員長)

では今日はあと3つありますので、そろそろ結論を出さなければと思いますけれど、先回のように一度我々が示した3観点について復習したいと思います。まず、ピンク色の冊子の学校からの傾向についてなんですけれども、これは前回からと比べまして、92ですので、非常に僅差であることには変わりはないんですけれども、若干教出が勝っている。ただその中でも今も話題になりましたけれども、「内容の程度」のところですね、かなり差が開いていて、学校の先生が使いやすいというところですね、観点としては重視していきたいと思います。そしてさらに調査専門委員会の方を見ますと、全部で12観点あったんですけれども、◎、○で表記をされているんですけれども、12の中で教出さんが10個に◎があって、光村さんが7個ということでここにも差が出ている。「市民の声」を見ますと、どちらも色々と書き込みがされていて、どっちともいえない状況にはなっています。そういったことと、今ここで我々が議論したところから推察しまして、国語の教科書については、教育出版でよろしいでしょうか。

(各委員)

異議なし。

(野田委員長)

それでは、ご異議なしと認め、そのように扱わせていただきます。
続いて、保健についてお願いいたします。

(加藤指導主事)

保健の教科書は、東京書籍、大日本図書、文教社、光文書院、学研教育みらいの5者から発行され、3年生から使用をいたします。その全てについて、全小学校と調査専門委員会で調査研究をいたしました。最初に、全小学校の教科用図書調査研究協議会による研究結果について報告します。ピンクのファイルの保健、4ページをご覧ください。全ての観点において、一番左の東京書籍に100個以上の◎が付き、特に観点1「学習指導要領との関連」においては、156個の◎が付き、高い支持を得ていました。

次に、緑色のファイル「教科用図書調査専門委員会報告書」の保健、7ページをご覧ください。主な観点について報告いたします。観点1「学習指導要領との関連」では、5者とも身近な生活における健康・安全に関する基礎的な内容を重視し、健康な生活を

送る資質や能力の基礎を培うことができるように編集されています。

観点2「名古屋市教育振興基本計画との関連」では、東京書籍の3、4年の付箋2、7ページをご覧ください。バランスのとれた生活について、自分の考えを書き込んだり、右端のように関連するページを示したりして、望ましい生活習慣を身に付けるのにふさわしい内容となっております。

続いて観点3(2)「内容の程度」では、光文書院3、4年の26から28ページ、付箋3(2)、26から28ページをご覧ください。26ページは食事について、27ページは運動について、28ページは休養・睡眠について、実生活を振り返りながら学ぶことができるようにしています。

続いて観点4、「表記・表現及び使用上の便宜等」では、大日本図書の5、6年の付箋4、18ページをご覧ください。吹き出しを用いたイラストや円グラフを使って、学習内容に関する様々な情報を示しております。

続いて、保健で重点となっている事項について報告いたします。緑色のファイル保健の8ページをご覧ください。事項1「保健の内容の体系化への対応」では、東京書籍の5、6年をご覧ください。東京書籍の5、6年、付箋で言いますと、「体系化」という付箋のところでは、37ページをご覧ください。右端の「つなげよう」の部分で、理科や4年の保健との関連を示して、相互に知識を補完しながら系統的な理解や知識の定着を図ることができるようにしています。

次に事項2、「知識を活用する学習活動の扱い」では、文教社5、6年の「知識を活用しよう」の付箋です。22ページの下半分をご覧ください。簡単な傷の手当の実習で、養護教諭の言葉掛け、手当のポイント、準備する物が示されており、学んだことを日常の中で実践ができるようにしています。

次に事項3「健康・安全に関する内容の実践的な理解」では、学研教育みらいの3、4年、付箋で言いますと「実践的理解」10ページをご覧ください。「やってみよう」の部分で、課題について実験をとおして理解することができるようになっていきます。

最後に事項5、「今日的な健康問題の扱い」では、前の方に戻っていただいて、4冊目の東京書籍の5、6年、横長のものですが、「健康問題」の付箋の48ページをご覧ください。新型インフルエンザやがんの予防についての解説が示されています。最後に、大日本図書の5、6年をご覧ください。付箋「健康問題」、大日本図書の5、6年です。35ページをご覧ください。「資料」の部分で、エイズや色々な病原体について詳しく示しています。また、欄外の「けんさく」の部分で、インターネットで調べると良い機関を示し、今日的課題について広く学習することができるようにしています。

最後に、教科書展示会における「市民の声」について報告いたします。保健につきましては、黄色のファイル「市民の声」の保健51ページ及び52ページのように、「写真や図、イラストが多く使われている。知識を活用して考える活動ができるように工夫してある。他教科との関連も記載してある。」、また「東京書籍は写真がきれいで見やすく、書き込みながら学習ができる。光文書院は、絵が分かりやすく、子どもが興味をもちやすい。」といった意見が寄せられておりました。以上、保健について、報告させていただきました。

(野田委員長)

それでは保健の採択に関する審議に入ります。ご意見、ご質問はありませんか。

先程国語のところでも話題になりましたけれども、「内容の程度」のところ、今ご説明では、光文の教科書で説明いただきましたけれども、◎がですね東書にも付いていますけれど、東書の教科書でこの「内容の程度」のところ、顕著なところはどこですか。

(加藤指導主事)

「内容の程度」は観点における3の(2)のところですね。東京書籍につきましては、3、4年、付箋3(2)の12、13ページをご覧ください。「広げよう」の部分で、学習内容を補足する情報を示して、健康な生活を送る資質や能力を高めることができるよう、工夫がされております。

(野田委員長)

あとけっこうですね、書き込めるようになってきているといいますか、ノート代わりに使える教科書だなと感じましたけれども、この辺り現場での評判といいますか、ノートは特にないんですね、保健には。どの者も書き込み形式ですか。書き込み形式ですね。書き込み形式ですけども、この東京書籍さんの書き込みの箇所はけっこう多い気がしますけれども。

その他いかがでしょうか。

東京書籍の5、6年生の5の22ページについて、この辺り少しご説明いただけないでしょうか。

(加藤指導主事)

5の22ページのところにつきましては、印刷・造本のところで、他の教科書にないワイドな紙面ということで、横長で見やすくされていること、それと写真、それからイラストを含めて学習内容が一目でわかるように工夫されているということで◎が付いております。以上です。

(野田委員長)

AB版というやつですね。よろしいでしょうかね。

では意見もないようですので、いつものように復習をしてみたいと思いますけれども、我々が示した3観点であります、ピンクのファイルの学校から上がってきた観点の平均ですけども、先程も担当の指導主事さんからお話しがありましたとおり、東京書籍が全部3桁ということで、845。2位の方が326で、500ぐらい差が出ている。現場の皆さんは東京書籍が使いやすいということです。それから、調査専門委員会は国語と同じように12観点から詳しく見ていただきましたけれども、その中で◎の状況を見ていきますと、東京書籍が12分の7、2番目が大日本で12分の5で2つぐらいの差がついております。「市民の声」も先程ご紹介したとおり。それでは保健の教科書については、東京書籍でよろしいでしょうか。

(各委員)

異議なし。

(野田委員長)

ご異議なしと認め、そのように扱わせていただきます。

それでは先ほども申し上げたとおり私は退席をいたしますので、議事は第1委員長職務代理者である服部委員にお願いいたします。

【野田委員長退席】

(服部第1委員長職務代理者)

それでは審議を再開したいと思います。ここからは私が取り回しをさせていただきますので、よろしくをお願いいたします。

それでは理科についてお願いしたいと思います。

(鷺尾指導主事)

現在小学校では、3年生から6年生までの4学年で理科の学習をしております。理科の教科書は、東京書籍、大日本図書、学校図書、教育出版、信州教育出版社、啓林館の6者から発行されています。まずは、全小学校の教科用図書調査研究協議会による研究結果について報告いたします。ピンクのファイルの5ページの理科をご覧ください。全ての観点において、大日本図書が◎の数が一番多く、非常に高い支持を得ておりました。

続いて緑色のファイル、理科の9をご覧ください。調査専門委員会が、各者の観点別の特徴や特筆すべきものを調査研究した結果について報告をいたします。一部教科書を使って具体的に説明いたします。国語同様教科書は、上から順番に1冊ずつ見ていきますのでお願いいたします。

まずは観点1については、6者とも問題解決の過程に沿って活動が繰り広げられ、科学的な見方や考え方が身に付くように配慮をされています。大日本図書5年生、140ページをご覧ください。「予想しよう」などの場面で言語活動を多く示し、子どもの考えが深まるように工夫をされています。また、続いて141ページのように、実験方法については非常に丁寧に説明をしております。続いて教育出版5年の教科書、21ページにあります下の部分をご覧ください。ノートの使い方が丁寧に記載をされ、自らの思考の流れを確認したり、整理をしたりできるようになっております。続いて啓林館6年生の教科書、16ページをご覧ください。観察・実験の結果、考察、まとめといった段階を丁寧に扱い、子どもたちの思考の流れに沿ったつくりになっております。

観点2については、6者とも基礎的・基本的な事項を着実に身に付けることができるように配慮をされています。東京書籍では、まとめを簡単な文章で表現し、子どもが理解しやすくなっております。また、6年の教科書をお開きください。26ページ、27ページになります。東京書籍です。ここにあります各単元末には「たしかめよう」とい

うものを設け、基礎・基本の定着を図っております。続きまして大日本図書、6年生62ページをご覧ください。「わかったこと」という枠囲みのところがありますが、ここでは観察・実験の結論というのと、定義・説明などを区別して表現し、子どもの基礎・基本が確実に定着できるように工夫をされています。続きまして学校図書、6年の教科書45ページをご覧ください。ここにありますように、「ふりかえってみよう」では学習内容が確認できる基礎問題を掲載しております。同じく学校図書の57ページ、もう一つの付箋のところをご覧ください。右下辺りにありますが、3年生で学習した虫眼鏡の使い方をこの6年の教科書でも掲載をし、実験技能の定着を図っております。

続きまして観点3(1)においては、6者とも各学年に適切な教材が選ばれています。大日本図書や学校図書では、学習で取り上げる植物や動物などは地域の実態に応じて入手できるものになっております。(2)においては、6者とも各学年の発達段階に応じて、育成すべき能力に重点をおいた構成となっております。大日本図書、学校図書、教育出版は、各学年に「学び方」のページを掲載し、育成すべき能力について意識をさせています。観点3の(3)においては、6者とも補充的な学習や発展的な学習の内容は、各学校で扱いやすい構成となっております。教育出版4年の教科書をご覧ください。147ページの下にあります「しりょう」では、児童の興味・関心を高め、内容をさらに深めることができる内容を取り上げ、「はってん」マークを付して、学習指導要領に示す内容とは明確に区別できるようにしております。

続いて観点4においては、6者とも適切なイラストや写真が使われ、安全についても十分な配慮がなされています。東京書籍と大日本図書では、文章をまとまりごとに改行する文節改行とし、読みやすくしております。また、安全に対して配慮が必要な場面では、児童が納得して取り組めるように注意をする理由も記載をしております。教育出版では、「注意」マークや「危険」マークを付して安全に気を付けるように促しています。

観点5においては、6者とも印刷は鮮明で、堅牢な製本となっております。大日本図書では、色彩が一段と鮮明で、実物に近い色合いで再現されています。啓林館は、各学年とも教科書本書と児童が書き込みができる別冊の二冊構成となっております。

続きまして、理科で重点となっている事項について報告いたします。緑のファイル、理科の10に沿ってご説明をさせていただきます。事項1「学習したことをいかすものづくり」については、東京書籍3年、128ページをご覧ください。この128ページから133ページにかけては、ものづくりのページとなっております。同じように啓林館3年、152ページをご覧ください。同じく152ページから157ページにかけてが、ものづくりのページとなっております。どちらの教科書も、質的・量的に優れ、児童の興味・関心に応じて、ものづくりを行うことができるように配慮されています。信州教育出版社3年の教科書をご覧ください。124、125ページになります。児童が自分の力で作成できそうな教材を提示し、作り方が丁寧に示されております。

事項2「観察・実験の結果を整理する活動」では、大日本図書、学校図書、教育出版、啓林館が結果を考察する力を付けることや、児童が考えたり説明したりする力を付けるための工夫が見られます。

事項3「博物館や科学学習センター等の利用」については、大日本図書4年、64ペー

ジをご覧ください。名古屋市科学館をはじめといたしまして、他の学年も含め、名古屋に関わる身近な施設を多く紹介しております。

事項4「コンピュータ等の活用」については、東京書籍5年、74、75ページをご覧ください。ICT機器を活用した学習場面をイラストで紹介し、活用の参考になるような配慮がされています。

事項5「日常生活との関連」については、大日本図書3年、116、117ページの下と、教育出版6年、13ページの下にありますように、学習した知識が生きて使われていることを実感できるように工夫がなされております。

最後に、教科書センターでの教科書展示会における「市民の声」について報告いたします。理科については、黄色のファイル、57、58、59ページの意見の一部にありますように、「写真やイラストがわかりやすく、きれいなものが使われている教科書が良い」といった内容の意見が寄せられておりました。また、60ページ後半に書かれているように「全てを載せてしまっただけでは、自ら追究し、発見するという理科ならではの活動にそぐわない」という意見もありました。以上、理科について報告いたしました。

(服部第1委員長職務代理者)

説明が終わりましたので、皆さまからの説明を受けます。ただいまの説明で、ご質問があればお出してください。

実験のところを最初のところで示していただいたんですけども、実験でそれぞれ扱いが違っているとか、そういうところは各者でないですか。私発達障害の子なんかのカウンセリングなどをしていると、よく実験についていけないというお子さんがいるんですけども、その辺のところの配慮はどうなんでしょうか。

(鷺尾指導主事)

それについては、各者とも比較的段階を追って実験を進めるような手順が示してあります。

(服部第1委員長職務代理者)

先程示していただきましたよね。

(鷺尾指導主事)

大日本の最初に見ていただきました、140、141ページですね。一番最初に見ていただいた大日本の5年生の観点1のページですが、ここにありますように、条件を変えてここでは実験を進めるわけですが、アは水の量を増やすということで、これが次のページまでに結果がつながるわけですが、青い色でその予想から実験、結果までが青い矢印でつながっていると。そして、温度を変えるというところでは、オレンジ色ですかね、これで示しているというふうに、子どもが迷わないように実験を進められるような工夫がなされております。また各者とも、特に実験の安全ということについて、配慮がなされておりますので、赤で「注意」というようなことで示してありますが、こういったことについて各者とも十分配慮がされて、実験の安全については考えられ

て作られているというふうになっております。

(福谷委員)

ご指摘いただいて私も気付いたんですけれども、大日本図書の内容は、非常にわかりやすくいいなと思って拝見していたんですけれども、例えばですね、「楽しい理科」3年生の最初に開いた4ページ、一番最初の部分、1の「自然のかんさつをしよう」というところで、「かんさつ」の「さ」というのが、デザインだとは思うんですけれども、3画ではなく、つながって2回で書く「さ」になっています。我々はそのまま流して普通に読めるんですけれども、ちょっとこだわりの強いお子さんだと、ここで止まってしまうのではないかとご指摘を受けたものですから、この辺りについて、指導上、現場の先生方が何らかの配慮をしていただけるのかなというのがちょっと気になりました。

(服部第1委員長職務代理者)

特に見出しのところ止まってしまって、そこにこだわってしまって話の展開のところについていけないお子さんが出てしまうというような可能性が出てしまうのではないかとありますので、現在全国で6.5パーセントぐらいの方が各クラスにはそういう発達上の問題のあるお子さんがいらっしゃるし、診断されてない方もかなりいらっしゃるということで、ある意味でそういうことにも配慮すべきではないかと思っておりますけれども。そのようになっているのは大日本図書ですね。教科書体でない字を使っている。他のところを見ると普通の教科書体で書いてありますけれども、その辺のところ教育課程上配慮すべき問題だと思っておりますが、いかがでしょうか。

(金田指導室長)

今ご指摘のありました、平仮名の「さ」、あるいは「き」もこれに当たりますけれども、最後の一画の部分がつながる場合と、つながらずに表記がされているものがございまして。今ご指摘があったものもございまして、今回見本本として出されているものを細かく見ていきますとですね、この他にも混在しているケースはございまして。私の家に届きます大手の新聞を見てもですね、その活字は印刷文字として最後の一画がつながったものになっていますし、社会的につながった文字というのは色々な場面で活用されております。これは字形の違い、表現の差というふうには受け止めていいのではないかなと思っております。ただちなみに小学校1年生で、平仮名の指導をしていきますけれども、その際は楷書、手書きで楷書体ということで「さ」、「き」いずれもですね、最後の1画は離れた形で3画目、「き」でいうと4画目というふうには、書く場合には指導してきております。お話のありましたように、特にこだわりの強い子どもは、そのことに目を向けてですね、どっちがといった話になるかもしれませんが、今のところどちらもそれは表現の違いの範囲で、どちらも活用されていると、子どもたちには伝えていくのかなというふうには思っております。ただ一般論といいますか、全体的な教科書の活字の使われ方を見ますと、大半が離れた、最後1画が離れた形のものを使用しているというのは実態としてございます。

(服部第1委員長職務代理者)

ある意味で表現の差みたいところで捉えているというご指摘ではございましたけれども、3年生の子なんかは1年、2年でしっかり「こういうふうを書くんですよ」と指導を受けてきて、急につながっているというところとやっぱり混乱をきたすし、全ての子が使いやすい教科書をとるところを見ていくと、やはりこのところは少し配慮していくべき点ではないかなというふうに思いましたけれどもね。

(金田指導室長)

おっしゃるとおりだと思います。ただ発達障害とかですね、色々の特徴のある子も将来社会で自立して生きていく中で、当然つながった「さ」や「き」を目にしてですね、それも受け入れて、活用して生きていく力を身に付けさせなければならないという側面もございますので、そこはですね、個々の子どもに応じて丁寧に指導していくことが大事かなというふうに思っております。

(服部第1委員長職務代理者)

他にご意見ございませんでしょうか。

それから印刷・造本のところで、啓林館だけが別冊の2冊の構成であると書いてありますけれども、このところ少しご紹介いただいてもよろしいですか。

(鷲尾指導主事)

啓林館の6年生の本がいつていると思いますので、一番後ろですね、一番後ろのところが取れるようになっていきますので、ちょっと見ていただけますでしょうか。外してノート代わりに使っていくんですが、内容を見ますと、「学習の始めに」という、例えば2ページをご覧ください。「学習の始めに」ということで、「思い出してみよう」、そして続いて「考えてみよう」ということで、ここが学習のきっかけになることを思い出させたり、それから自分の体験から色々と考えて、学習のきっかけづくりに当たるというふうに捉えます。続いて4ページをご覧ください。ここで「学習の終わりに」ということで、力試しにチャレンジしようということがあります。学習を終えた後で、基礎・基本の定着を図りながら、自分たちが学んだことを活用していく力を付けていくということで、この「学習の始めに」と「学習の終わりに」というセットでこの本は作られています。ですので、この学習の最初のきっかけの部分と、最後のまとめ、発展の部分でこのノートを使い、途中の実験結果をまとめたりということは、別にノートを作るなりプリントを進めるというような形になると思います。

(服部第1委員長職務代理者)

まとめノートみたいな感じに使えばいいということですね。

(鷲尾指導主事)

そうですね、学習の最初と最後に使っていくという感じになります。

(服部第1委員長職務代理者)

もう1つ質問いいですか。内容のところの2「内容の程度」のところ、大日本図書の「発達段階に応じた学びが行えるようになっている」ということと、教育出版の「『学年の学び方』のページが展開されている」というところ、両方とも◎が付いているんですけども、ここのところもう少し詳しく教えていただけますか。

(鷲尾指導主事)

「内容の程度」についてご質問いただきました。そうしましたらですね、大日本図書の6年生と、それから教育出版の6年生をご覧ください。調査専門委員会では、次の点について調査をしたというふうに出てきております。大日本図書の2ページ、3ページをご覧ください。それから教育出版の4ページ、5ページをご覧ください。「内容の程度」については、学習指導要領の問題解決能力というものが、それぞれ3年生、4年生、5年生、6年生で規定をされております。6年生では、自然の事物・現象についての要因や規則性、関係を推論しながら調べるという、この推論しながら調べるというのが6年生で育てるべき能力ということで、重視をされています。大日本の2ページ、3ページの「理科の学び方」の後ろところに、「推論して調べよう」という言葉が付いていると思いますが、一番左上ですね、「理科の学び方」という青い文字の横に「推論して調べよう」と。このことを子どもたちにここで意識をさせ、そういった展開で学習が進んでいくと。それから、教出の方につきましても、4ページの「スタート」のところにある旗の6年の学び方の下に、これまでに学んだことを関係付けたり推論したりしながら調べようということで、そのことを子どもたちに十分意識させていくと。もちろん他の教科書についても、指導要領で規定された能力を育てるつくりはもちろん意識して作られています、こうして最初から子どもたちにこういうことを今年、この学年は力を付けていくんだということを意識させているということで、◎が付いているというふうに伺っております。

(服部第1委員長職務代理者)

他にご質問よろしいでしょうか。

大体質問も出尽くしたようですので、今までのところを確認します。最初の各学校から出していただいた観点別の傾向を見ますと、理科につきましても、大日本が◎1,053件ということで、大日本図書が一番多いです。それから教科用図書調査専門委員会の方の◎につきましても、大日本図書が9個ということで圧倒的に◎をいただいているということで、それからもう1つは「市民の声」のところなんですけれども、「市民の声」も色々とお出しいただいているんですけども、写真イラストなどがきれいだというようなこともいただいておりますので、今までの議論を深めましたところで、今回の採択は大日本図書というふうにしてよろしいでしょうか。

(各委員)

異議なし。

(服部第1委員長職務代理者)

では時間もきておりますので、次に生活の方に移りたいと思います。

(出井指導主事)

生活科の教科書は、東京書籍、大日本図書、学校図書、教育出版、信州教育出版、光村図書、啓林館、日本文教出版の8者から発行されています。1、2年生の児童が学習をします。まず最初にピンク色のファイル6ページをご覧ください。全小学校の教科用図書調査研究協議会による研究結果については、どの観点も全て、大日本図書に◎が最も多く付き、高い支持を得ております。とりわけ、観点「学習指導要領との関連」、「内容の選択」、「内容の構成」では120以上の◎が付き、高い支持を得ています。続いて緑色のファイル調査専門委員会の報告書、11から12ページをご覧ください。それでは、各者の観点別の特徴や長所の要点と、その内の特筆すべきものについて◎の箇所を8者もありますので、抜粋して報告をさせていただきます。教科書を上から順番に取っていただければ、見れるようになっております。

観点1「学習指導要領との関連」においては、改善のポイントとなる気付きの質を高め、自然の不思議さや遊びの面白さを実感できるような配慮がなされているかを中心に比較をしました。大日本図書は、上巻のページ70、81を見ていただきますと、「あきとふれあおう」で子どもの諸感覚を刺激した自然遊びがたくさん紹介され、気付きの質を高めようとしています。続きまして教育出版でございます。その上、ページ51のようにですね、「あめのひをたのしもう」で、その写真を見ていただければわかりますが、諸感覚を生かして自然の面白さを感じられるよう提示されています。

観点2に移ります。「名古屋市教育振興基本計画との関連」において、郷土に対する愛着、子どもの学ぶ意欲・学習習慣、規範意識をはぐくみ、生活習慣を身につけることができるように配慮されているかという点で重点を持って比較をしました。東京書籍は、上ページ11のように、「やくそく」の欄に安全な学校生活を送るためにはどんなことに気を付けたらよいかを、イラストを参照しながら自主的に考えることができるようになっています。続いて大日本図書、下ページ52を見ていただきますと、「わたしのまちはっけん」でお気づきになられたかと思いますが、名古屋駅周辺の写真が多く取り入れられ、名古屋の子どもが興味・関心を持って学習に取り組むことができるように工夫がされています。

観点3の「内容の選択」においては、学習材となる「遊びの工夫」に焦点を当てて比較をしました。学校図書は、下巻ページ80のようにおもちゃを作る段階で材料あつめ、設計図づくりなど試行錯誤して作成できるようになっております。

観点3の「内容の程度」においては、主体的な活動を促すような創意工夫がされているかという点で比較をしました。啓林館は別冊「たんけんブック」を活用して、外での活動の時、携帯でき、活動内容が充実したものになるよう工夫されています。日本文教出版は下巻6ページのように、教科書の見開きの左上に常に活動目標が書かれています。ここですと、「まちのすてきなところを出し合いましょう」というふうに書かれています。主体的に活動できるように工夫がされています。

観点3の「内容の構成」においては、補充・発展的な資料を掲載し、自学自習できる教科書であるかという点で比較をしました。光村図書は、上巻のページ46から53のように、ステップとして「教科書をもてみんなもやってみよう」と、地域の公園などで自分自身で五感を通して春を感じることができるよう、活動がわかりやすく例示をされています。

観点4「表記・表現及び使用上の便宜等」においては、具体的な活動を引き出すように、イラスト写真などが利用しやすく取り入れられているかという視点で比較をしました。東京書籍は、下ページ76のように、電子黒板を活用した発表場面がイラストで例示されています。ページ117のようにデジタルカメラの使い方についても紹介がされています。

観点5「印刷・造本等」においては、8者ともわかりやすい表記をしています。6者がA B版で、全ての者が上下巻構成で、文字の大きさ、鮮明度など適切であると考えております。

次に生活科で重点となっている事項「幼児教育と小学校教育との接続の扱い」においては、8者ともスタートカリキュラムを意識した内容となっています。啓林館は、上ページ2から11のように、10ページに渡って学校生活の楽しみや、安全についてイラストで提示してあります。日本文教出版については、上ページ4から17のように、14ページに渡ってその1からその7として、学校生活の楽しみや安全についてイラストで提示がしてあります。

次に生活科で重点となっている事項「中学年の社会科・理科・総合的な学習の時間への接続に関する配慮」においては、8者とも生活科と社会科、理科、総合的な学習の時間の接続を意識した内容が取り入れられています。特に啓林館は、下ページ40から45のように、3年生の理科で扱う風や空気、ゴム、磁石、ひもなどにつながるおもちゃ作りを充実させています。

次に生活科で重点となっている事項「伝統文化を尊重し、郷土を愛する態度を育成する工夫」においては、8者とも季節や地域の行事の様子が掲載されています。信州教育出版社は、上ページ24のように伝統料理を高齢者から教えてもらったり、上ページ90から97のように、季節の行事を掲載したりし、日本の伝統文化に関心が持てるように工夫してあります。

最後になりましたが黄色のファイル、「市民の声」ページ66から67をご覧ください。生活科においては、「生活科の教科書はどれも図鑑のページが大変美しく、こうした教科書で学ぶ子どもたちは幸せであると思います」、「幼稚園や保育園との連携の点から見てほしい」といった意見が寄せられています。以上、生活科について、報告をいたしました。

(服部第1委員長職務代理者)

説明が終わりました。ご質問をお願いいたします。

ご説明いただきましたけれども、観点のところでご質問なかったでしょうか。

ちょっと私の方からよろしいでしょうか。観点のところの幼児教育と小学校教育との接続のところで、よく小1ギャップとかよく言われますので、その接続は大事かと

思いますけれども、今2者説明いただきましたけれども、非常にたくさんの◎が付いている大日本はどういうふうになっていますでしょうか。

(出井指導主事)

大日本図書は上巻の巻頭で、家庭生活から学校生活とつながり、特に友達づくりがしやすいような紙面構成がされております。ただ説明した2者は、かなりスタートページに重点を置いてページ数を割いています。ページ数を割いて丁寧に説明をして、できるだけ幼児教育の遊び的な要素から、生活科の学習にうまくつなげていけるように、段階を置いて馴染ませていくというような形になっておりますので、それに比べると大日本図書は○という評価になったのだと考えます。

(服部第1委員長職務代理者)

随分それぞれの会社で工夫がなされていて、今見せていただいている大日本図書ですと、なんかこうファイルが付いて主体的にわかるようになっていたり、先程の啓林館の別冊「たんけんブック」だと、持っていけるような工夫がなされていたりと、それぞれ会社が色々と工夫しておられるのではないかなと思いました。

何かお気づきの点ないでしょうか。

(福谷委員)

「たのしいせいかつ」、大日本図書の下、「わたしのまちはっけん」というところで、先程名古屋の街がという紹介があったんですが、その子どもたちがずっと街を探検しようということで、64ページから色々な写真が全部名古屋市内で、非常に親しみやすいのではないかなと思って見させていただきました。科学館があったり、テレビ塔があったり、名古屋城が出てきたりということで親しみやすいなど。

(服部第1委員長職務代理者)

そうですね、すごく名古屋の状況がたくさん盛り込まれていますよね。この「たのしいせいかつ」というのは全国版でこの名古屋のものが取り上げられているということですか。

(出井指導主事)

はい。

(服部第1委員長職務代理者)

「市民の声」を読んでいたところ、大日本図書には夜の街のことがたくさんあるけれども、それは必要かどうかというようなことが書いてあったと思いますが。街の様子を教えるという時の意図として、昼も夜もというところで、どのように考えているのか教えていただければ。

(出井指導主事)

夜の街を扱っているのは、「たのしいせいかつ」下巻大日本図書の46ページからで、透明シートが入っているところです。アブラゼミや昆虫が夜はどう過ごしているのだろうという興味を子どもたちが持った時に、これを活用するというような大変興味深い工夫であると調査専門委員会は申しておりました。また、人々が夜も働いているところに目を向けていけるページだと考えます。これを扱うことは、社会、理科への接続という部分でも大事ではないかという話を調査専門委員会は申しておりました。

(服部第1委員長職務代理者)

昼間では見れないところもこんなことがあるよ、ということも知っていこうというような視点ということでよろしいですか。

時間がきてしまいましたので、この辺のところで、質問がなければ採択に移りたいと思います。では調査研究報告書の観点別傾向を見ますと、生活科につきましては、大日本図書が「学習指導要領との関連」でも125点を取っておりますし、全ての点ですね、内容、学習の仕方の支援、指導上の便宜、印刷・造本等で高得点を収めておりまして、790点取っております、二番目の東書さんが435点ですので、300点ほど高い状況になっております。それから、教科用図書調査専門委員会の結果を見ましても、大日本図書の中身を精査していただいたところ、◎が一番多いですね。印刷・造本等で○、それから幼児教育のところでは○で、あとは全部◎というふうになっております。それから「市民の声」の少し疑問の点も先程答えていただきましたので、生活科の採択としましては、大日本図書としてよろしいでしょうか。

(各委員)

異議なし。

(服部第1委員長職務代理者)

ありがとうございました。

本日は、時間がまいりましたので、残り5種目まだ残っておりますけれども、5種目につきましては、8月1日の定例会で、審議・採択を行いたいと思います。なお、採択結果につきましては、市民の方に対しては9月1日に公開されます。本日知り得た内容の取り扱いにつきましては、ご配慮いただきますよう、お願いいたします。

第72号議案は非公開となります。傍聴人の方は退室してください。

【傍聴人の退室】

(服部第1委員長職務代理者)

第72号議案については、野田委員長が議事に戻りますので、暫時休憩といたします。関係職員以外は退室をお願いいたします。

【関係職員以外の退室】

第 72 号議案は非公開にて行われたため、名古屋市教育委員会会議規則第 12 条の規定により、会議録は別途作成。

午前 10 時 51 分終了